

## 広島県集落対策に関する検討会議（第2回）

日 時 令和5年8月7日（月）9:30～11:30  
場 所 広島県庁南館1階 会議室

### 1. 開会

作野座長より開会挨拶。委員の出欠について

出席：作野座長、材木委員、清水委員、早田委員、沼尾委員（オンライン）、山田委員（オンライン）

欠席：浦田委員

### 2. 議題

- |                              |               |
|------------------------------|---------------|
| (1) 協力2町における調査状況について         | 【資料1、2】       |
| (2) 集落対策の基本戦略（案）と施策検討のポイント等  | 【資料3、4-1、4-2】 |
| (3) 地区の将来像に応じた対策の在り方について（素案） | 【資料5】         |
| (4) 中間整理に盛り込む事項について          | 【資料6】         |
| (5) 今後の会議予定について              | 【資料7】         |

### 3. 意見交換

#### (1) 協力2町のヒアリング調査状況について

構成員 ・安芸太田町に関しては自治振興会が集落レベルのところもあり、資料1の6～8ページに組織図があるが、この中で数字が書かれていないところが集落単位の自治振興会になっているところか。

広島県 ・そのような状況が多い。ただ、自治振興会の下にあるのが班であり、班がないところは集落単位ということになっている。一部に集落内小地域も含めて班と呼ばれているところもあり、混在している状況である。

#### (2) 協力2町の財政状況（歳出）について

##### ○インフラ管理の財源確保と国の動向

構成員 ・地域で色々な形で支え合い助け合いが行われていること等もあり、都市部に比べると扶助費の規模はかなり抑えられている印象がある。  
・投資的経費のあり方も含めて、地域を管理し土地やインフラを管理する財源をどう手当するかは非常に大きな課題である。  
・国土審議会で新たな国土形成計画がまとまり、地域管理構想の策定と実施が謳われた。インフラ等の維持管理については、国の動向も踏まえ、県としても対応を考え、国土保全に対する国への要望を含めてこの会議で取りまとめをしていくことが大事である。

構成員 ・資料2の4ページで、安芸太田町は住民自治組織に対して2100万円、神石高原町については4300万円のうち草刈りはどのくらい占めているのか。

広島県 ・9割程度である。あとは溝掃除などで、道路の維持管理に関連するものとなっている。草刈りの単価は平米いくらというような形で決まっている。

### (3) 集落対策の基本戦略(案)の考え方について

#### ○基本戦略の立案方法について

- 構成員 ・基本戦略をまとめる時に、どうありたいかという話と、現状とのギャップを示すものから課題が出てくる。その課題をどのように解決するかというものが基本戦略になり、この基本戦略の下に具体的な戦術が入るといことがわかるように資料が整理されると、全体として分かりやすくなるのではと思った。
- 座長 ・「解決策」は、二つのパターンがあり、ベストシナリオと、最低限シナリオがある。この会議では、おそらく最低限シナリオを作りたいのが事務局の考えだろうと思うので、最低限シナリオについて、明確にすると良いと思った。
- 広島県 ・民間事業者として、例えば県内各地に生協が食材を配達しており、また郵便局や福祉事業者はどの地域にもある。行政だけでなく様々な力も取り入れる発想でいる。
- 構成員 ・例えば、10年後20年後になったとしても、変わらない最低限のラインを決め、その上に足しこみながら、どのぐらいバリエーションの幅を持たせられるかについて考えられると良いと思った。
- 座長 ・解決策を考えると、行政だけでやるのか、民間事業者などの参入を考慮して作るのかにより、解決策に幅が出るのではないか。
- 座長 ・最低限シナリオとは、言い換えると、実現可能もしくは実際に行動するビジョンを作るといものだと思う。
- 広島県 ・民間事業者として、例えば県内各地に生協が食材を配達しており、また郵便局や福祉事業者はどの地域にもある。行政だけでなく様々な力も取り入れる発想でいる。
- 構成員 ・例えば、10年後20年後になったとしても、変わらない最低限のラインを決め、その上に足しこみながら、どのぐらいバリエーションの幅を持たせられるかについて考えられると良いと思った。
- 座長 ・行政としてやることは資金面での手当だけでなく、規制緩和や民間参入の後押し等については、行政にしかできないため、その辺りも入れて、オプションを増やすという選択肢があるだろうと思った。

#### ○住民自治組織の再編の方向性について

- 構成員 ・今までの路線にない選択肢を想定するのであれば、住民自治組織を再編する場合、組織規模そのものを拡大あるいは縮小させるのか、組織機能を拡大あるいは縮小させるのか、といった多角的側面からの選択肢を検討することも必要かと思う。
- 広島県 ・20年30年後を見据えたときには、小さくするのが正しい解なのかどうか、人口推計等をお示ししながら、地域で議論していくことが必要になってくる。
- 構成員 ・分割して、住民自治組織を小さくしておけば役員は出やすいかもしれないが、役員になるのは「やむを得ず」というのが住民の本音だろう。
- 座長 ・今まで地区レベルで組織化をしてきたが、それも維持できないから結局元に戻るとい状態ではないか。頑張れる集落は頑張れるけどそうでない集落はどうなるかという課題が残る。

#### ○中山間地域の価値と打ち出し方について

- 構成員 ・中山間地域を、豊かに育てていくことを考えたときに、これらの施策や事業をやることが、現在中山間地域に暮らしている方だけではなく、広島県民全体にとって意味があり価値があり、環境や豊かな生態系が保全されていくなど、オール広島で見て、集落に暮らしがあることの価値をしっかりと提起することが大切であると思う。

## ○地区の将来像（資料5）は誰がどのように選択・決定するのか

- 構成員 ・ 集落を三つに分類し多様な形でサポートしつつも、最低限は守るという姿勢を貫くという説明には大変感銘を受けた。ただ、それを決めるのは集落なのか、市町なのか。またそれを判断する場合の基準を必要な情報提供も含めて県でどこまで行うのか。基準をどう考えるかがポイントと考える。集落ごとに自分たちの地域の情報を把握しながら、専門家、市町或いは県の支援も受けつつ判断できるような環境があってもいい。
- 座長 ・ 集落住民が直接考えるのはまず無理である。これまでの議論で、地区単位でもそういうことが非常に難しくなっている。だからといって役場が言っていくのもなかなかできない。誰が意思決定するのかということが非常に重要な議論になる。
- 構成員 ・ 優先度が高い地区の目安の中で、年齢構成、基準年齢以下がほとんど居ない地区、基準となる年齢というのは具体的にどのような考えがあるのか。
- 構成員 ・ 調査地区の中で、1～3段階がどれくらいあるのか。それから、基準の年齢を何歳くらいに設定するのか、見通しがあるのかという質問である。地区リーダーが明確でないというのも、どういうことなのか。目安としては、これは客観的な指標で選んでいるが、地区の方々の見通しや意見など、主観的な指標として、今後の調査で聞かれたらどうかと思う。
- 広島県 ・ 目安のところの基準となる年代というのは、ここはまだ決めていないわけではない。大体55～60歳くらい以下が一つの目安として出てくるのではないかと。あと2と3の段階割合のところは、実際地元の方々の意識は3にあるというのが結構増えているのではないかとというのが、これまで地元の方のお話を聞いての実感である。2から3の方が結構ウエイトを占めている。

## ○戦術のアウトプットについて

- 構成員 ・ 最終的にアウトプットで基本設計を出して、かつ、戦術をこのレベルのように詳細を出せるのか気になる。もう少しまとめて出すという判断はないのか。
- 広島県 ・ ここだけでお答えを出せないテーマがある。例えば福祉や医療など、いろいろ絡んでくるので、答えが出し切れないものは、引き続き、検討を重ねていく必要がある。
- 構成員 ・ この後で追加の戦術を出す余地を残せるものにしておくということによいか。
- 座長 ・ 「一度決めたら変えられない」という状態は避けたいと思う。他県において、市町村レベルで「地域戦略会議」を持って、年間2、3回会議をやり、計画の修正や進捗管理を行っている例もある。その辺りも盛り込んでいく必要がある。

## （4）地区の将来像に応じた対策の在り方について

### ○地区の将来像とそれに応じた対応策について

- 座長 ・ 集落や地区で地域の将来を見極めていく、そういったことは、行政的には今までタブー視されてきたが、原案としてはそれをやっていくということになる。誰が意思決定するかという論点はあるが、意思決定のための情報提供について、その手段が示されたとして整理させていただきたい。
- 構成員 ・ そこは極めて慎重に考えなければならないと思う。
- ・ 当事者の方たちが自分たちの地域のことを客観視して、どのようにしていこうかを考え、その時にそれぞれの段階に合った支援のメニューを用意しつつ、適切にそれ

を使っていくことを、どういうふうに住組みとして作るかがとても大切で、そのような意味であれば理解できる。

- 座長
- ・今、言われたような趣旨で使っていくものだと思う。段階に応じて支援ができないように変わっていくということではないと思っている。
  - ・住民が主体的に決めるようこれまで進めてきたが、住民は、主体的にはもう決められないとか、決めるぐらいだったらやらないって感じになっている。この現状を踏まえ、どうするべきかを考えるのがこの会議の議論として大切である。

### ○地区の将来像と選択肢の明確化の可否について

- 構成員
- ・地域が衰退化していく段階（フェーズ）ごとに想定される対策や選択肢は異なるため、地域カルテのイメージからすればその記載は必要かと思う。
- 広島県
- ・状況の経過に従い、こういう状況になったらこういうのを発動しなければならないなど、状況に応じた対策というのを準備していくイメージを持っている。
- 座長
- ・段階毎にパッケージにするという手もあると思う。ただ、私の直感ではケースバイケースだと思うため、そこのところはあまり決めて示さないほうが良いだろうと思っている。

### (5) 中間整理に盛り込む事項について

#### ○「あるべき姿」と「最低限」をどう見るか

- 構成員
- ・まず目指すべき姿を定め現状分析を行い、ここが課題だと特定し、だから基本戦略をこうやりますという全体構造がないと、どこに着目しているのか分からない。最低限をどう見ているのかというのを知りたいと思う。
- 広島県
- ・このまま放っておくとどうなるというのが、恐らく現状になるのではと思っている。そこに時間軸を持ちながら、書き込みを考えさせていただければと思う。
- 構成員
- ・集落の人口減に伴う様々な問題に対して、あるべき姿っていう点では、最低限だけっていうのはちょっとやや寂しい。
- 座長
- ・最低限というのは恐らくルーラルミニマム、こういう仕組みがあると中山間地域の暮らしは維持できるという意味の最低限であり、選択肢を最低限用意するということは少し違うのではないかと思う。今日意見が出たように、民間の力や市場原理を有意に使うとか、或いはもっと多様な主体が参画するといった攻めの要素を、暮らしを守るための攻めの要素としてもっと盛り込んでいく必要がある。

以上